

## 令和2年度 第3回大阪府河川整備審議会 議事要旨

日時 : 令和2年10月28日(木) 15:00~16:07  
場所 : 大阪府庁別館7階都市計画室分室  
出席者 : (委員) 市川委員・里深委員・多田委員・鶴田委員・中村委員・馬場委員・久末委員・弘本委員・船曳委員

計9名

### まとめ

#### 樫井川水系新家川の治水事業の事業評価について

- ・府民意見募集を開始し、現地視察を実施した上で次回以降継続審議とする。

### 概要 : [以下、○委員 ●事務局]

#### 樫井川水系新家川の治水事業の事業評価について

- 令和2年度第1回河川整備審議会で諮問した事項について、以下のとおり訂正する。
  - ・「樫井川水系樫井川の治水事業について」は正しくは、「樫井川水系新家川の河川整備の事業評価について」であり再度、「樫井川水系新家川の河川整備の事業評価について」で諮問。
  - ・「津田川水系津田川の治水事業について」は、下流の河川整備状況を反映し、かつ最新の精緻化された洪水浸水シミュレーションを実施した結果、当初想定していた上流域の浸水リスクが発生しないという結果になり、事業継続の妥当性を審議する建設事業評価の対象でなくなったということから、今年度諮問した「津田川水系津田川の治水事業について」の事業評価は、今年度、実施しない。
  - ・新たに今回「大戸川ダムの大阪府域への治水効果について」諮問する。
- 「大戸川ダムの大阪府域への治水効果について」は、その審議内容が大阪府河川整備審議会運営要綱の第6条に記載の治水専門部会の担任意務である、その他治水面に関する課題にあたるため、治水専門部会にて審議することとしたい。
- 了承した。
- 落差工の整備では、生物の上流や下流への移動に配慮すると記載されているが、今後も落差をなくすよう傾斜を付けたような形に変えていくということなのか。
- JR阪和線のすぐ下の部分に落差工があるように見えるが、この落差工は仮の落差工で、河川改修後は低くなり、落差工はJR阪和線の少し上流側に整備する予定。
- 地域の方々が活発に防災の活動をされているが、アドプト・リバーの活動に文化的な連続性を取り入れれば、治水・文化・風土というものがつながって面白いエリアになると思う。
- 樫井川のかわまちづくりについては、河道内にサイクリングロードを整備した計画であるが、新家川のような河川断面に余裕がない河川でサイクリングロードを整備すると、河川を横断方向に逃げるができない場合、例えば、神戸の都賀川で起きたような水難事故が起きないとも限らないので、気をつけてほしい。
- 樫井川のサイクルロードは、狭い区間もあるが、河川敷を有しているような断面になっており、河川内を走っている利用者が堤防まで上がって逃げられる通路を計画するなど、河川内を横断できる形で計画している。
- この地域に限定したことはないが、世帯数が増えるとともに核家族化が進んでおり、恐らく高齢

者の単身世帯など、全体として高齢者の割合が増えている中で、リスクコミュニケーションなど、防災教育等活動について高齢者の方に対してどのようにアプローチしていくのか、河川整備事業が進めば安全性は高まるが、それで100%安全となるわけではないので、工夫が必要かと考えている。

- 日々の業務の中で、近傍の高齢者の方と接する機会もあり、また、アドプトの活動でも比較的、高齢者の方の参加が多い。今後もいろんなタイミングの中でリスクコミュニケーションの機会を増やすことを考えていきたい。また、アドプト・リバーについては、行政が仕掛けた事例、あるいは自発的に地域から声があった事例など、地域によって違いがあるが、それをきっかけにして大阪府としては川に親しんでもらう、あるいは川の安全性、危険性を知ってもらうというところに結び付けていきたいと考えている。一方で、大阪府は広域行政であるため、地域との密接性が高い市町村とも連携し、リスクコミュニケーションや地域づくりについて地域が一番盛り上がることも含めて取り組んでまいりたい。
- 上下流の連続性について、今回の整備事業が100メートル以内とはいえ、生物の環境は重要であり、特に、大阪の南、柏原あたりには重要な生物・植物や希少種が生息しているため、生物が往来できるように整備してほしい。
- このJR新家駅近辺の中でも旧トウヨシノボリなどが発見されており、一定移動するというのも認識しているため、それらに配慮した落差工を整備したいと考えている。
- 今回の改修区間は、過去の台風などで護岸が洗掘されたなどがあるか。
- 樫井川本川では、平成7年や平成29年の出水により被害を受けているが、新家川については、近年、大きな施設の被害はない。
- あと整備延長50メートルで河川整備の進捗率が30%ぐらい残っている状況だが、どのあたりの整備が残っているのか。
- 新家川橋という道路橋梁がJR阪和線に隣接する形で上流側にあり、この橋梁の架け替えが必要となるが、この橋梁は、JR新家駅の駅前で非常に交通量が多く、警察協議であれば例えば信号の設置や埋設物の移設に関する協議や、迂回路を設置するための用地取得や移転補償などが必要となるため、その協議を進めている。この架け替え工事が完了すれば、おおむね残り50メートル河川の整備が見えてくると考えている。
- 承知した。  
以上、「樫井川水系新家川の治水事業の事業評価」について、現地視察を実施した上で次回以降継続審議とする